

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「複数の情報を整理して自分の考えをまとめる」、算数では「データの活用」に関する問題の正解率が低い。いずれも複数の資料から情報を抜き出し、再構成して記述することに課題がある。

○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、語彙力が乏しく、自分の考えがもてなかったり、相手に分かりやすく表現したり自信をもって発表したりする活動が苦手な児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○自力解決や定着させるための時間を十分に確保する必要がある。

○学習の振り返りや日記、作文の週末課題等、あらゆる場面を効果的に活用して自分の考えを短文で表現する経験を積み重ねることで、書くことへの抵抗をなくしていく。

○国語科以外でも、複数の図表や文章を比較・引用して説明する学習を取り入れる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○読み解く力（文章や図表等から読み取ったことを基にして、分かったこと、考えたことを相手に伝える力）の育成について、教科書の内容理解の指導を中心に進めていく。

○児童一人ひとりの実態（特性や課題）に応じた学習活動を展開する。一人一台端末を活用し、児童が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるようにする。また、ICT機器を活用した学習活動や、小規模校の特色を生かした協働的な学習活動を展開する。

○導入時に既習事項である前時の振り返りと、自分の思いや考えを書き表し、人に伝える活動を取り入れる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び
板橋区授業スタンダードSの取組

○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。

○既習事項の定着を図るため、授業の導入時に前時を振り返る活動を行う。

○探究の仕方を児童が自己選択できるようにする。

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○一人一台端末や電子黒板等を積極的に活用し、一人ひとりの児童がもつ疑問や思いに応える個別最適な学びと、互いの考えを共有して協働的な学びを実現する。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○教科横断的な指導計画を作成する。

○学習の事前、または事後に振り返りを丁寧に行い、各教科と総合的な学習の時間とのつながりを児童が感じられるよう指導を行う。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

○「学びのエリア」による9年間の一貫教育：高島第一中学校、高島第一小学校との連携により、川に挟まれた地域性や工場地帯といった地域特性を生かした系統的教育課程を編成・実施する。

○密接な保幼小連携の実施：近隣の保育園・幼稚園への情報発信に加え、「田植え体験」や「ちびっ子プロジェクト」などの交流活動を通じて、幼児期の遊びから小学校の学習への円滑な移行を図る。

豊かな心と健やかな体の育成

○道徳・学級活動の充実：一人ひとりの考えを大切に「考え、話し合う」道徳授業や、異学年交流を通じて、自己肯定感と他者尊重の心を育む。

○郷土愛を育む探究学習：新河岸・高島平地域の豊富な教育資源（人・もの・こと）やSDGsに関連した学習を取り入れ、地域に貢献しようとする態度を育む。

○健康保持と安全指導の徹底：いじめの未然防止、地域の実態に即した実践的な安全指導・避難訓練を行い、心身の健康と安全を保障する。

多様な教育的ニーズへの対応

○きめ細かな指導体制の構築：「副担任」や「学年協力者」の配置により、児童一人ひとりを丁寧に見取る体制を整え、個々の特性に応じた特別支援教育を推進する。

○居場所の提供と個別最適な学び：校内の教室以外の居場所づくりを人的体制も含めて拡充し、一人一台端末等のICT機器を活用して、個々の児童の疑問や習熟度に応じた学習を支援します。